

あわめなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

朝夕めっきり涼しくなり、さわやかな秋風が心地よく感じられる季節になりました。

今回は最近よく耳にする「SDGs (エスディージーズ)」と「カーボンニュートラル」について触れてみたいと思います。

まず一つ目のキーワード「SDGs」ですが「Sustainable Development Goals」の略で「持続可能な開発目標」と翻訳されています。これを少し噛み砕いてみますと「持続」とは、「人間が地球に住み続ける」、「開発」とは、「より良い世界を作る」ということですので、「持続可能な開発目標」とは、「人間が地球上ですっと暮らしていけるような、より良い世界を作るための目標」という意味になります。この目標とは、2015年に国連総会で決められた2030年までに目指すべき17の目標です。

次に二つ目のキーワード「カーボンニュートラル」ですが、菅首相は昨年10月の所信表明演説の中で「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」と宣言しました。「温室効果ガスを全体としてゼロにする」とは、「排出量から吸収量と除去量を差し引いた温室効果ガスの合計をゼロにする」事を意味します。つまり、排出を完全に抑えることは現実的に難しいため、排出せざるを得なかった分については同じ量を「吸収」または「除去」することで、差し引きゼロ、正味ゼロを目指しましょうということです。これが、「カーボンニュートラル」の「ニュートラル(中立)」が意味するところです。

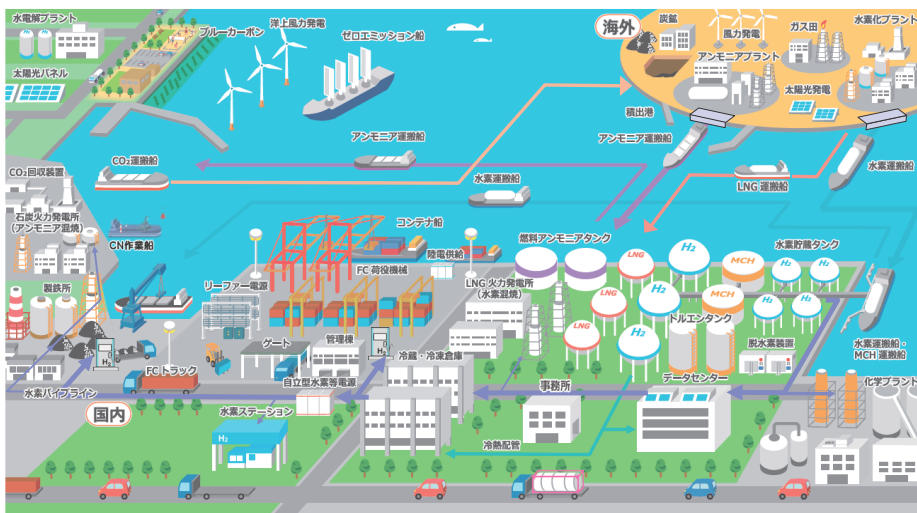
そして、「SDGs」と「カーボンニュートラル」の関係ですが、「SDGs」の17ある目標の7番目の目標である「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」と13番目の目標である「気候変動に具体的な対策を」という目標がカーボンニュートラル宣言と大きな関わりをしているのではないかと思います。

現在、港湾の分野においては、国際物流の結束点かつ産業拠点となる港湾において、水素、燃料アンモニア等の次世代エネルギーの大量輸入や貯蔵、利活用等を図るとともに、港湾機能の高度化等も通じて「カーボンニュートラルポート」の形成に取り組んでいるところです。

また、徳島県では全国に先がけて水素エネルギーの普及に向けた取り組みが進んでいます。すでに固定式の水素ステーションが徳島阿波おどり空港や県庁舎に設置され、空港の作業リフトや公用車の燃料として活用されているほか、移動式の商用水素ステーションが県内2箇所で運用されており、一般車両の燃料としても活用され始めています。また、近々水素ステーションの増設や水素エネルギーを活用した路線バスの運行も予定されていると聞いております。

私どもの事務所でも、次世代エネルギーを効率的に活用するために必要となる港湾の役割などをしっかり勉強して地域の期待に応えられるような港湾の整備に向けて取り組む所存です。

小松島港湾・空港整備事務所長 新見 泰之



引用:『「カーボンニュートラルポート(CNP)形成計画」策定マニュアルドラフト版(2021年8月、国土交通省港湾局)』



提供:徳島県
今秋に県内で運行予定の水素バス



提供:徳島県
水素で稼働するフォークリフト

みなと通信

◆県内の国際物流拠点「徳島小松島港コンテナターミナル」を見学！

5月27日、徳島小松島港赤石地区（小松島市）において国際貿易拠点を形成する県内唯一のコンテナターミナルを訪れ、荷役作業を見学しました。

当事務所職員のほか、地元自治体からも参加いただき、普段間近で見ることができないコンテナの荷役現場を見学し、荷役方法や現地で困っていることなどを荷役業者様に教えていただきました。

本ターミナルは、貨物需要増加に対応するため、平成23年3月に沖洲(外)地区（徳島市）から赤石地区に移転し、現在は水深10m岸壁に韓国航路と阪神航路（国際フィーダー）の定期コンテナ航路が就航しています。

近年では寄港船舶の大型化が進み、隣り合う岸壁に接岸する船舶との距離が接近して係留ロープが交差するといった貨物荷役時の安全性の低下や、貨物船と同地区に寄港する大型クルーズ船との共存といった課題への対応が必要となっています。今回の見学で得た知識を活用し、港湾利用者の皆さんの意見を聞きながら、官民で連携して「便利で使い勝手の良い港」を目指して取り組んで参ります。

また今回の見学では、コンテナ荷役を担当されている徳島港湾荷役(株)様、日本通運(株)小松島事業所様に多大の御協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



↑ 韓国行きコンテナ船にガントリークレーンでコンテナを積み込みます



↑ コンテナについて荷役業者様に教えていただきました

おしえてコマほん “コンテナ”とは??



徳島小松島港では、主に県内企業の製品や原料の輸出入に「コンテナ」が多く利用されています。皆さんもコンテナを運ぶトレーラーを街中で見かけたことがあるのではないのでしょうか？コンテナ(container)とは「容器」の意味で、港湾で一般的に利用されるコンテナは、写真にあるような鉄やアルミニウムでできた箱を指し、20フィート（約6m）と40フィート（約12m）という2種類があります。世界共通規格であることを活かし、効率的に貨物を積み降ろすことができ、また大量輸送や冷凍状態での輸送も可能であるなど、国際貿易に欠かせないものとなっています。



↑ 徳島小松島港で利用されるコンテナ

◆沖洲(外)地区に就航する「オーシャン東九フェリー」を見学！

7月21日、「オーシャン東九フェリー」が就航する徳島小松島港沖洲(外)地区（徳島市）のターミナルを訪れ、荷役作業などを見学しました。本ターミナルは、船舶の大型化や南海トラフ地震発災後の港湾機能確保への対応などを目的に、水深8.5mの耐震強化岸壁として国直轄事業で整備したもので、平成28年の大型新造フェリーの就航とともに津田地区旧ターミナルから移転し、県内の国内物流拠点として本格供用を開始しています。同フェリーは東京港、北九州港へ1日1便ずつ毎日就航しており、県内外企業の製品や原料を積んだシャーシに加え、クレーン作業車や乗用車なども輸送しています。

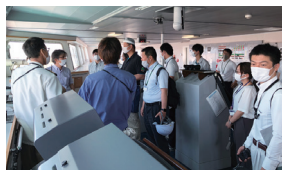
今回は、船内見学を行い船内での過ごしやすさを実感したほか、デッキにおける貨物車両の積卸しを見学し、定時に出港するための効率的な荷役、同フェリーの特徴である「シャーシ無人航送」を間近で見学することができました。またフェリーの操舵室も見学し、入出港時の操船内容や様々な設備を知ることができたほか、岸壁整備とあわせて防波堤を延伸したことで、波による船舶の動揺が抑えられ安全性が高まったといった効果や、徳島南部自動車道の徳島沖洲ICとともに近いという物流面でのメリットを確認することもできました。

港湾整備を担当する私たちにとって、今後の施策を検討する意味でも、事業の効果を肌で感じることは非常に重要です。今回の見学では事業者であるオーシャントランス(株)様に多大の御協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

フェリーは全長約190mもあります！



↑ フェリーターミナル全景



↑ 操舵室で操船について船長らに教えていただきました

おしえてコマほん “シャーシ無人航送”とは??



①輸送元の港で貨物を積んだシャーシのみを船内に積み込み、ヘッドは下船
②輸送先の港でも現地のヘッドでシャーシを降ろす
という方法で、ドライバーの乗船が不要となることから、人件費削減のほか労働時間短縮にも繋がります。近年では陸上輸送から海上輸送に切り替える「モーダルシフト」による環境負荷の低減、「働き方改革」としても注目されています。また最近では東京港で別のRORO船（roll-on roll-off ship）にシャーシを積み替えることで、北海道（苫小牧）へシャーシのまま輸送することも可能になっています。



↑ シャーシを船内に積み込むトレーラー（ヘッド+シャーシ）

◆ 徳島大学の学生に港湾に関する講義を開催しました！

7月20日、徳島大学理工学部社会基盤デザインコースの「沿岸域工学」（担当教員：山中亮一講師）において、当所職員による講義を行いました。講義では、「港の話」として、港湾施設が普段の生活の中で重要な役割を担っていることを紹介し、また当事務所が実施した港湾や海岸保全施設の整備事業について説明しました。新規採用の若手職員も1セクションを担当し、同世代からの説明に学生のみなさんが興味を持った様子で聴いていました。

講義後のアンケートでは「港に対する認識が変わった」「学校で習う基礎的な知識以外に、具体的な施工事例を知ることができて良かった」などの意見がありました。当事務所では、今後もこのような若い世代への効果的なPRに取り組んでまいります。



↑ 講義中の様子

◆ 全国の学生を対象に港湾工事の Web 現場見学会を開催しました！

7月29日に学生など若い世代の方々に建設業界や港湾工事への興味を持っていただくことを目的に、東亜建設工業株式会社大阪支店と当事務所の共催で、当事務所が発注した「徳島小松島港金磯地区岸壁(-11m)改良工事」の現場において見学会を開催しました。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、Webを用いた新しい型式で実施しました。

参加者はHPで全国の学生等に向けて募集し、当日は22名がWebで参加していただき、当事務所からは港湾の役割などを説明し、東亜建設工業からは実際の現場から中継により工事内容を紹介して、供用後約50年が経過した同岸壁のリニューアル工事（予防保全事業）について学びました。

参加者からは、「雨天時と晴天時にはスケジュールや作業内容に違いはあるのか？」など工事に関する質問があったほか、受注者である東亜建設工業、発注者である当事務所それぞれの1年目職員に対して「なぜ今の仕事を選んだのか?」、「仕事のやりがいとは?」といった就職を控えた学生らしい質問もあり、興味を持った様子がかがえました。

なお、この見学会の様子は、当日夕方のTVニュース番組にも取り上げられました。本来ならば直接現場に来て体感してほしいところでしたが、Web型式により本来であれば遠くてなかなか来ることができない東北や関東の学生にも現場を見てもらえたことなど、建設業界で担い手不足が深刻化する中で、人材確保に向けた取組として、たいへん有意義な見学会になったと感じています。



↑ WEB見学会の様子



↑ 全国各地から学生が参加

◆ 多くの技術者様が「国土交通行政関係功労者表彰」を受賞されました

四国地方整備局では、令和2年度内に完了した工事並びに業務の中で特に優れた成績を収めた企業及びそれに携わった技術者を表彰しています。当事務所の関係で受賞された皆さまを下記にご紹介します。

この度受賞されたいずれの工事・業務においても、高度な技術力での対応かつ品質の高い成果や安全対策をしっかりと行ったことなどが評価されたものでした。

■ 四国地方整備局長表彰（優秀建設技術者）

- 「令和元年度 徳島小松島港金磯地区岸壁(-11m)改良等工事」
東亜建設工業(株)四国支店／現場代理人：河野 一郎氏
- 「令和元年度 徳島小松島港防波堤安定性照査等業務」
パシフィックコンサルタンツ(株)四国支社／管理技術者：石河 雅典氏

■ 小松島港湾・空港整備事務所長表彰

- 「令和元年度 徳島小松島港金磯地区岸壁(-11m)改良等工事」
東亜建設工業(株)四国支店、兼子建設(株)、技術者：吉村信也氏
- 「令和元年度 徳島海陽沖GPS波浪計設置工事」
五洋建設(株)四国支店
- 「令和元年度 徳島小松島港防波堤安定性照査等業務」
パシフィックコンサルタンツ(株)四国支社
- 「令和2年度 徳島小松島港金磯地区岸壁(-11m)改良施工検討業務」
中央復建コンサルタンツ(株)徳島営業所／管理技術者：勝俣 優氏



↑ 事務所長表彰記念撮影(令和3年8月2日)

写真前列左側2番目から順に、東亜建設工業(株)小西 豊氏、五洋建設(株)河上 清和氏、パシフィックコンサルタンツ(株)小野 敬氏、中央復建コンサルタンツ(株)石本 修氏、兼子建設(株)吉崎 高市氏、吉村 信耶氏

◆ 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰

四国地方整備局では、海をきれいにするために、港内や海浜等の美化活動に貢献した団体及び個人を対象に奉仕活動表彰を行っています。

令和3年度は、小松島漁業協同組合 元根井女性部を表彰致しました。元根井女性部は長年にわたり、徳島小松島港元根井地区の港内清掃を毎月実施しており、徳島小松島港のクリーンアップに貢献すると共に、アサリの放流を行うなど、海の水質改善や藻場の回復を図る取組に尽力されました。

明るくてパワフルな女性部の皆様が受賞されました！
これからもみんなの美しい海を守っていきましょう！



みなと通信



橋港の現状と今後に関する講演を行いました

8月30日、阿南商工会議所において「橋港と高速道路ネットワーク形成グランドビジョン策定特別委員会」の第1回委員会が開催され、兼松会頭をはじめ多くの関係者の皆さまが出席されました。当事務所からは事務所長が招かれ、本委員会のなかで橋港の現状と今後に関して講演させていただきました。

阿南市に位置する橋港は昭和40年に重要港湾に指定され、近年では、火力発電や工業製品製造などで活発に利用されています。現在、橋港背後で四国横断自動車道の整備などが予定されているなか、港湾や

道路などインフラ設備の連携を図ることが重要であることから、阿南商工会議所により本委員会が設立されました。

今回は、港湾における賑わい創出の可能性のほか、現在国土交通省港湾局が取り組んでいるカーボンニュートラルポート(CNP)形成や、近い将来発生が危惧されている南海トラフ地震への対応なども踏まえて、今後の港湾からの地域経済活性化を検討していくべく活発に議論が行われました。

当事務所としても、港湾を活かした地域経済の発展に向け、可能な限り協力して参ります。



講演の様子

事務所職員コラム

海洋環境整備船「みずき」で機関長をしております江口です。

本年7月に、永年勤続30年表彰を受賞しました。私は30年間、海洋環境整備船員の道を一筋に歩んで参りました。この間、阪神淡路大震災・東日本大震災・西日本豪雨災害の際に現地に派遣され自然の猛威を目の当たりにしてきた中、脳裏に焼き付いているのは、2階建家屋の壁一面が流れて来て、それを「みずき」で回収したことです。回収しながらこの家屋に住んでいた人のことを思うと心が痛みました。

近年、日本の何処かで豪雨災害が発生しています。我々の仕事で綺麗な海が孫の代まで続くように日々心身を鍛えて、定年まで数年ですが若い乗組員と一緒に頑張りたいと思います。

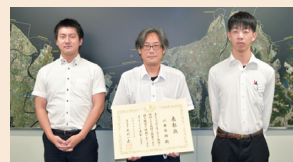


永年勤続30年の表彰状をいただきました

4月より企画調整課に参りました、六車です。

このたび、永年勤続20年表彰を受賞しました。これまでを振り返り、実に多くの方々に支えていただいたことにあらためて感謝しているところです。

小松島での勤務は今回が初めてですが、これまでの経験を十分活かして少しでも地域の発展に貢献したいと思います。また当課は本誌「あわみなと通信」の編集などを担当しており、今後も皆さまに役立つ情報をご提供できるよう努めていきます。



企画調整課3人一丸となって取り組みます！
(中央)六車課長、(左)米原係長、(右)高橋技官

今年度採用になりました高橋陽大と申します。出身は、香川県坂出市です。

私は、将来的に徳島小松島港がどのような港になれば徳島や四国の経済に効果をもたらすのかといった検討を踏まえ、港湾背後に立地する企業の方や港で物流に携わる方などにお話を伺うという仕事を主に行っています。長期的な視野に立って考えなければいけない大変難しい仕事ですが、非常にやりがいのある仕事です。

実際に港湾整備に携わってみて、生活をしていくうえで港湾が必要不可欠な存在であることに改めて気づき、港湾施設を一層魅力的に感じるようになりました。これから自信と誇りを持って働けるように、頑張ろうと思っています。

最終的には、自分の住んでいる四国地方をより安全に住みやすい地域にできるように責任感を持って仕事をしていきたいです。



魅力的に感じたフェリーの全景

出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所
TEL (0885)-32-3855

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。



事務所ホームページQRコード